

本県のレベル判断基準

下記に示した指標、保健医療の負荷の状況及び社会経済活動の状況に関する事象を勘案して**総合的に判断**する。

レベル	指標		事象
1 感染 小康期	病床使用率	30%未満	【保健医療の負荷の状況】 ・ 外来医療・入院医療ともに負荷は小さい。
	1日あたり 新規陽性者数 (1週間平均)	1,100人 未満	
2 感染 警戒期	病床使用率	30%	【保健医療の負荷の状況】 ・ 診療・検査医療機関（発熱外来）の患者数が急増し負荷が高まり始める。 ・ 救急外来の受診者数が増加。 ・ 医療従事者の欠勤者数が上昇傾向。 【社会経済活動の状況】 ・ 職場の欠勤者が増加し、業務継続に支障を生じる事業者が出始める。
	1日あたり 新規陽性者数 (1週間平均)	1,100人	
3 医療負荷 増大期	病床使用率	50%	【保健医療の負荷の状況】 ・ 発熱外来・救急外来に多くの患者が殺到、重症化リスクの高い者がすぐに受診できない状況が発生。 ・ 救急搬送困難事案が急増。 （県全体で7～8件/週、圏域ごとに2～3件/週） ・ 医療従事者にも欠勤者が多数発生し、入院医療の負荷が高まる。 【社会経済活動の状況】 ・ 職場で欠勤者が多数発生し、業務継続が困難になる事業者が多数発生。
	重症者数	10人	
	1日あたり 新規陽性者数 (1週間平均)	2,800人	
4 医療機能 不全期	病床使用率	80%	【保健医療の負荷の状況】 ・ 膨大な数の感染者に発熱外来や救急外来で対応しきれなくなり、一般外来にも患者が殺到。 ・ 救急車を要請されても対応できない状況が発生。通常医療も含めた外来医療全体がひっ迫し、機能不全の状態。 ・ 多数の医療従事者の欠勤者発生と相まって、入院医療がひっ迫。 ・ 入院できずに自宅療養中・施設内療養中に死亡する者が多数発生。 【社会経済活動の状況】 ・ 職場の欠勤者数が膨大になり社会インフラの維持に支障が生じる。
	重症者数	25人	
	1日あたり 新規陽性者数 (1週間平均)	5,600人	

レベル判断基準における現在の状況

1 指標の状況

	医療ひっ迫防止対策 強化宣言解除時	1 週前	直近 集計時
	2/3	2/24	3/3
病床使用率	33.8%	16.7%	13.3%
重症者数	3	2	2
1日あたり 新規陽性者数 (1週間平均)	954.6	329.1	302.7

2 事象（保健医療の負荷）の状況

	医療ひっ迫防止対策 強化宣言解除時	1 週前	直近 集計時
	1/27	2/17	2/24
医療機関における 1日あたり検査件数 (1週間平均)	2,697	2,215	1,954
県内消防本部における 搬送困難事案件数 (週計)	1/29	2/19	2/26
	全県 19 岐阜 13 西濃 0 中濃 1 東濃 5 飛騨 0	全県 24 岐阜 3 西濃 0 中濃 0 東濃 21 飛騨 0	全県 11 岐阜 2 西濃 0 中濃 1 東濃 8 飛騨 0
入院制限を行っている 医療機関数	2/2	2/24	3/3
	14	6	2